月例研究発表要目

第 97 回　昭和 56 年 1 月 28 日　田辺秀樹「寄席芸人としてのヴェーデキント」

第 98 回　昭和 56 年 5 月 6 日　塚田富治「モアとベーコンの間――『劇場論的世界像』は可能か――」

第 99 回　昭和 56 年 6 月 3 日　森川俊夫「『人間性』について（その比較文化論的考察）」

第 100 回　昭和 56 年 10 月 7 日　鈴木道彦「フランスの反ユダヤ主義」

第 101 回　昭和 56 年 11 月 18 日　井上義夫「ロンドン，1915 年 9 月――D. H. ロレンスと第一次世界大戦――」

第 102 回　昭和 56 年 12 月 16 日　秋谷　治「中世の一老女の呟き――常盤の姥の紹介――」

編 集 後 記

日本人は国際ということばが好きで，それは日本人がまだ真の意味での国際人ではない証拠である，という意見がある。たしかに，概念はことばによって表現され，それとは対立する状況を想定することによってその概念が生じるとするならば，日本人が「国際性」を志向するには十分な素地があるのかもしれない。しかし，言語ないしは文化という立場からすると，国家の存在を前提として，それによって規定される「国際性」とはどのようなものだろうか。母国語とか外国語ということばも日本では通用しても「外国語」ではなかなか説明しづらい「非国際的」な表現かもしれない。この国際性ということばの「具体的な内容」に意味を与えるのはやはり我々自身でなくてはならない。

語学研究室のメンバーでは，溝口雄三氏と広田昌義氏がそれぞれ東京大学，京都大学へ移られた。

*

今回も志村俊司氏に編集の実務をすべて引き受けていただきました。深くお礼申し上げます。　（桜井記）

言 語 文 化　第18号

1981 年 12 月 20 日発行©

編集 発行人　一橋大学語学研究室

発行所　一橋大学語学研究室
東京都国立市中 2 の 1

GENGO BUNKA

——Cultura Philologica——

XVIII

1981

CONTENTS

Articles

Proust and His Asthma ..... Michihiko Suzuki 3

On Malebranche's Treatise of Passions (2)
——Structure of ADMIRATION—— ..... Shigehisa Hagihara 22

Some Notes on Otto Julius Bierbaum's Novel "Stilpe"
..... Hideki Tanabe 39

Funny-Feely Words in English ..... Beverly Nelson 55

Notes

In Pursuit of Chaucer ..... Wataru Kikuchi 96

Some Notes on Works by and about N. S. Leskov
——Bibliographies and Four Editions—— ..... Takehisa Iwaasa 104

Motojiro Kajii at Yugashima ..... Toshio Udoh 111

THE HITOTSUBASHI LANGUAGE INSTITUTE
HITOTSUBASHI UNIVERSITY
KUNITACHI, TOKYO
JAPAN